

外国語科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・児童は授業に積極的に参加している様子が伺える。英語で質問をされると、どのように答えようか考えているが、分からない時は日本語で答えている。
- ・日頃より英語で発話する機会を増やしたりスモールトークを多用したりしているため、「聞くこと」に関しては、日々、英語に触れる機会を増やすことができた。
- ・導入時に明確な課題を提示することによって、「聞くこと」「話すこと」に関しては、目的意識を持って聞いたり、話したりする学習をすることができた。

【 課題 】

- ・「話すこと」に関しては、日本語で応対してしまう実態を考慮し、今までよりも発話、発声する機会を増やしたり、児童同士の会話の機会を設けたりすることで、話すことに慣れさせるようにする。
- ・「書くこと」に関しては、ローマ字やアルファベットを確実に書けるようにしていく。そのためには、日々の活動の中で、アルファベットを書かせる機会を増やしたり、ローマ字に関わらせる時間を設けたりしながら、書く活動を増やしていく。
- ・ワークシートや副教材等を用いて、読み取ったことや考えたことを、文字を用いて表現する活動を適宜取り入れ、「書くこと」への自信をつけていく必要がある。更に、次の単元以降で、相手や目的に応じて「話すこと」ができるようにしていく。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第6学年	△	△	

学習状況の分析

○知識・技能

- ・目標値を上回ることができた。音声を聞き、活字体の大文字や小文字を書く設問では、「f」や「r」などの音声の特徴の理解が定着していない。身近な語を聞き、その意味を理解することに関しては、どの設問でも目標値を上回っている。授業において、外国語教育指導員や担任、教材等から数多くの生きた英語を聞いてきた成果である。

○思考・判断・表現

- ・学習の中で、目的をもって聞いたり、話の先を考えながら聞いたりする活動を常に取り入れていることで更なる定着を図っている。
- ・ものの場所を説明する場面で、適切な位置を表す語を書き写す設問では、目標値を上回る結果となった。昨年度と比較して大きく伸びたことから、5年生の学習において、位置関係を考え、それを表す語を判断する知識を身に付けてきたことが要因である。

○主体的に取り組む態度

- ・目的に応じて資料を参照し、必要な情報を書き写す課題において、「行きたい国」など自信をもって答えることができていた。しかし、語句だけではなく表現を用いて書く課題では、正答率が低くなる傾向にあった。
- ・日頃の学習で培った知識や技能、思考力、判断力、表現力が問われた「書く」課題への自信のなさがうかがえる。各単元の言語活動の中に位置付けていくことが必要である。

授業改善のポイント（観点別）

【 高学年 】

○知識・技能

- ・授業中や家庭学習などでアルファベットを書いたり学習した英語表現を使う場面を増やしたりしながら、曜日や日付などの表現の定着を図る。
- ・授業の最後に、学習の振り返りを行い、1時間の中で何ができるようになったか、学習の成果が残せるようにする。

○思考・判断・表現

- ・言葉だけでなく、アイコンタクトや表情、ジェスチャー等を使って、積極的にコミュニケーションを図るように指導する。
- ・単元や1単位時間の導入時に明確な課題を提示し、目的意識を持って聞いたり、話したりする学習をする。

○主体的に取り組む態度

- ・ICT機器を活用し、絵や写真、映像など、具体的な資料とともに、日本と外国との生活・習慣・文化などの違いを知らせ、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。更に、チャンツや歌などを効果的に活用し、フレーズの定着を図る。
- ・単元の言語活動を通して、相手意識や目的意識をもって活動できるようにし、より相手や目的に合った表現方法を用いることができるようにする。
- ・繰り返し学習する中で、前回まで言えなかった英語表現を修正して身につけさせたり、相手を変えて、粘り強く、学習に取り組めたりできるようにする。